

授業科目	生活支援技術V		授業形態	講義	単位数	2単位	
担当者	宮地康子						
ナンバリング	W22L214	開講時期	後期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、様々な障害を正しく理解する。また、自立と意思を尊重ながら個々の持つ潜在能力や残存機能を引き出し、維持しながら安全で適切な介護技術を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護対象者の生活、生活支援の考え方を理解できる。</li> <li>・障害の特性を踏まえ、医学的側面より安全かつ適切な介護技術の習得、及び心理的側面の基礎的知識を身につける。</li> <li>・「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」能力を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは				
		内容	生活支援の対象である利用者の特性について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業の全体像をイメージしてくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第2回	テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解①（医学的側面を中心として）				
		内容	内部障害（心臓機能障害）に応じた介護について学ぶ。				
	第3回	授業時間外学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
		テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解②（医学的側面を中心として）				
	第4回	内容	内部障害（呼吸機能障害）に応じた介護について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第5回	テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解③（医学的側面を中心として）				
		内容	内部障害（腎機能障害）に応じた介護について学ぶ。				
	第5回	授業時間外学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
		テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解④（医学的側面を中心として）				
	第5回	内容	内部障害（膀胱・直腸機能障害）に応じた介護について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				

第 6 回	テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑤（医学的側面を中心として）
	内 容	内部障害（肝機能障害）に応じた介護について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 7 回	テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑥（医学的側面を中心として）
	内 容	内部障害（ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害）に応じた介護について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 8 回	テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑦（医学的側面を中心として）
	内 容	運動機能障害に応じた介護について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 9 回	テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑧（医学的側面を中心として）
	内 容	精神障害に応じた介護について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 10 回	テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑨（医学的側面を中心として）
	内 容	高次脳機能障害に応じた介護について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 11 回	テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑩（医学的側面を中心として）
	内 容	難病に応じた介護について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 12 回	テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑪（医学的側面を中心として）
	内 容	知的障害に応じた介護について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：保育士養成課程での学びを振り返り、テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 13 回	テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑫（医学的側面を中心として）
	内 容	発達障害に応じた介護について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：保育士養成課程での学びを振り返り、テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 14 回	テーマ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑬（医学的側面を中心として）
	内 容	重症心身障害に応じた介護について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：保育士養成課程での学びを振り返り、テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。

	第 15 回	テーマ	まとめ
		内 容	これまでの授業を振り返り、今後の学習へつながるようまとめを行う。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理してくる。 復習：これまでの授業を振り返り、学習内容を整理する。
	第 16 回	定期試験	
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「障害の理解・生活支援技術Ⅲ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	定期試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域「介護」「こころとからだのしくみ」に関する理解の程度(60%) 「学び続け、成長し続ける能力」(1) 獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 90 分)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、病院、介護老人福祉施設にて9年間看護師として業務に従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	生活支援技術VI		授業形態	講義	単位数	2単位	
担当者	高木正敏						
ナンバリング	W22L215	開講時期	後期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	コミュニケーションに障害のある聴覚、言語障害者を正しく理解し、豊かな支援ができるよう援助の視点を理解したい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚のしくみや言語の働きについて説明できる。</li> <li>・聴覚・言語障害者が社会生活を送るうえでの不便さや困難さを説明できる。</li> <li>・聴覚・言語障害に対して、障害に配慮した介護ができる能力を身につける。</li> <li>・「コミュニケーション能力」(2)「人間への信頼」能力を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	「障害」・「障害者」とは				
		内容	最近のマスコミで取り上げられている話題を知り、障害福祉の流れから「障害とは何か」について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業イメージを膨らませる。また、テキストを読んで、障害の概念と障害者福祉の基本理念について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第2回	テーマ	聴覚に係る障害とは①				
		内容	「聞こえのしくみ」を知り、「聞こえにくい」状態を体験し、聴覚に係る障害にはどのような障害があるかについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：テキストを読んで、「聞こえのしくみ」、聴覚障害の分類、聞こえにくさについて整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第3回	テーマ	聴覚に係る障害とは②				
		内容	難聴者の聞こえ方や困っていること、また、その配慮について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：テキストを読んで、聞こえにくさによる生活上の困難さと配慮点について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第4回	テーマ	言語に係る障害とは				
		内容	言語に係る障害には、どのような障害があるかについて知り、特性に応じた支援について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：テキストを読んで、言語障害の分類、障害特性、特性に応じた支援について				

	学修	整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第5回	テーマ	コミュニケーションの成立とは
	内容	コミュニケーションが成立するためには、支援者はどのようなことを知っておくことが必要なのかについて学ぶ。
	授業時間外学修	予習：テキストを読んで、乳幼児期の言語発達の過程について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第6回	テーマ	「聞こえない」「聞こえにくい」が、生活や人生に及ぼす影響
	内容	聴覚障害者の話を聞き、生活場面やこれまでの人生での不便さや困難さを知り、配慮点と有効なコミュニケーション手段を学ぶ。
	授業時間外学修	予習：3回目の授業内容のテキスト、レジュメを熟読し、授業に臨む。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第7回	テーマ	聞こえや言葉に障害を持った人とのコミュニケーション
	内容	乳幼児期から聞こえや言葉に障害をもつ人たちとコミュニケーションを図るには、どんなことが大切なのか学ぶ。
	授業時間外学修	予習：テキストを読んで、エリクソンの発達段階説とボウルビィの愛着（アタッチメント）理論について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第8回	テーマ	聴覚、言語障害教育の実際(聾学校見学と交流)①
	内容	聾学校の教育についての講話と見学と幼児児童生徒との交流
	授業時間外学修	予習：聾学校の見学と交流の事前学習のレジュメと学校要覧を読んでおく。 復習：まとめシートを書く。
第9回	テーマ	聴覚、言語障害教育の実際(聾学校見学と交流)②
	内容	聾学校の教育についての講話と見学と幼児児童生徒との交流
	授業時間外学修	予習：聾学校の見学と交流の事前学習のレジュメと学校要覧を読んでおく。 復習：まとめシートを書く。
第10回	テーマ	障害者教育の歩み
	内容	日本や世界で聴覚障害教育がどのように歩んできたかを理解し、今後の聴覚障害教育の方向性について学ぶ。
	授業時間外学修	予習：保育士養成課程で学んだことやテキストから、障害者教育の歩みを確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第11回	テーマ	コミュニケーション技法
	内容	聴覚障害者のコミュニケーション技法について学ぶ。
	授業時間外学修	予習：テキストを読んで、聴覚障害者のコミュニケーション技法の内容と留意点、注意点について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第12回	テーマ	補聴器や人工内耳の基本的な構造や働き、補聴器・人工内耳装用者との接し方
	内容	補聴器や人工内耳の基本的な構造や働き、使用上の留意点、補聴器・人工内耳装用

	回		者との接し方について学ぶ。	
	授業時間外 学修		予習：テキストを読んで、補聴器の使用上の留意点について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。	
	第 13 回	テーマ		重複障害に応じた介護
		内 容		ビデオを通して、視覚と聴覚に障害を併せ持つ人の実態を知り、日常生活や社会生活への影響と支援のあり方を学ぶ。
		授業時間外 学修		予習：テキストを読んで、視覚と聴覚に障害を併せ持つ人の主なコミュニケーションの方法を整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 14 回	テーマ		聴覚障害者の生活の質を高めるために
		内 容		聴覚障害者の生活の質を高める介護福祉機器等について学ぶ。
		授業時間外 学修		予習：聴覚障害者が用いる福祉用具について、テキストで調べておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
	第 15 回	テーマ		まとめ
		内 容		聴覚障害者の自立支援をまとめる。
		授業時間外 学修		予習：1～14回目のレジュメを熟読し、理解不足の点を整理しておく。 復習：：授業内容の要点を、ノートにまとめる。
		第16回		定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ・障害の理解・コミュニケーション技術」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）			
成績評価の 方法・基準	定期試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域「介護」に関する理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(2)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。			
課題に対する フィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。			
授業時間外学修	予習(各授業回30分) 復習(各授業回30分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1日90分)			
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、聴覚障害者、肢体不自由者、病弱者、知的障害者である幼児児童生徒に対する教育を行う特別支援学校で31年間教育実務に従事していた。 その経験を踏まえ、具体的な事例を交えて理解できるようサポートする。			
連絡先（質問等）	授業前後に、教室で質問を受け付ける。			

授業科目	生活支援技術Ⅶ		授業形態	演習	単位数	2単位	
担当者	菱沼恵美子						
ナンバリング	W2S216	開講時期	後期	授業時間数	60時間	授業回数	30回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	介護に適した衣服を、心地よく清潔に保った生活を送るための援助の視点を、物作りを中心に理解したい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護に適した衣、衣生活を考えられ、快適でしかも実用性のある衣の選択、衣服の選択、管理までできる能力を身につける。</li> <li>・「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」能力を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	自立に向けた生活支援①(家事)				
		内容	家事の援助から自立支援の視点を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第2回	テーマ	自立に向けた生活支援②(衣生活)				
		内容	衣生活と介護との関係について学ぶ。				
	第3回	授業時間外学修	予習：前期で学んだ「生活支援技術Ⅱ」の関係する内容について確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
		テーマ	衣服着用の目的と機能①				
	第4回	内容	衣服着用の目的と機能について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：四季の衣服の特徴を整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第5回	テーマ	衣服着用の目的と機能②				
		内容	さまざまな繊維の種類について学ぶ。				
	第6回	授業時間外学修	予習：前期で学んだ「生活支援技術Ⅱ」の関係する内容について確認しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
		テーマ	縫製基礎技術の習得(手縫い)①				
	第7回	内容	縫製に必要な物品等について学ぶ。				
授業時間外学修		予習：裁縫道具の準備をしておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。					
第8回	テーマ	縫製基礎技術の習得(手縫い)②					

6 回	内 容	お手玉の作成
	授業時間外 学修	予習：お手玉作成の準備をしておく。(ペレットの入れ方) 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
第 7 回	テーマ	縫製基礎技術の修得(手縫い)③
	内 容	シュシュとヘアーバンドの作成 1
第 8 回	授業時間外 学修	予習：シュシュとヘアーバンドの準備をしておく。(ゴムの入れ方) 復習：次回の授業内で完成できる状態までにする。
	テーマ	縫製基礎技術の修得④
第 9 回	内 容	シュシュとヘアーバンドの作成 2
	授業時間外 学修	予習：ゴム（シュシュ用、ヘアーバンド用 2 種類のゴム）準備 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
第 10 回	テーマ	縫製基礎技術の修得(手縫い)⑤
	内 容	はし入れ作成
第 11 回	授業時間外 学修	予習：手ぬぐいなどの木綿地を用意する。(ボタンのつけ方) 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
	テーマ	縫製基礎技術の修得(手縫い・応用)①
第 12 回	内 容	小さい巾着作成
	授業時間外 学修	予習：巾着の布とひもを用意しておく。(ひも通し方、ボタン) 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
第 13 回	テーマ	縫製基礎技術の修得(手縫い・応用)②
	内 容	コースター作成① さしこ縫い
第 14 回	授業時間外 学修	予習：コースター作成の準備をする。木綿、さしこ縫い用 復習：作品の柄、図案が完成できるよう準備しておく。
	テーマ	縫製基礎技術の修得(手縫い・応用)③
第 15 回	内 容	コースター作成①
	授業時間外 学修	予習：コースターの型紙を用意する。 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
第 16 回	テーマ	縫製基礎技術の修得(手縫い・応用)④
	内 容	コースター作成② さしこ縫い
第 17 回	授業時間外 学修	予習：コースターの図案を考える。 復習：①と違う図案でさしこを完成する。
	テーマ	縫製基礎技術の修得(手縫い・応用)⑤
第 18 回	内 容	コースター作成②
	授業時間外 学修	予習：コースター②の作り方ができる。さしこ縫い 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
第 19 回	テーマ	縫製基礎技術の修得(手縫い・応用)⑥
	内 容	ファスナー付小物入れ作成(さしこ縫い)①
第 20 回	授業時間外 学修	予習：小物が作れる木綿地準備する。(柄・さしこ縫い) 復習：柄のさしこが完成するようにする。



第 16 回	テーマ	縫製基礎技術の修得（手縫い・応用）⑦
	内 容	ファスナー付小物入れ作成②
	授業時間外 学修	予習：ファスナーを準備する。 ファスナーのつけ方。 復習：ファスナーのつけ方を完成する。
第 17 回	テーマ	縫製基礎技術の修得（手縫い・応用）⑧
	内 容	ファスナーの小物入れ作成③
	授業時間外 学修	予習：完成に足りないものの準備をする。（飾り物など） 復習：次回の授業まで仕上げて提出可能な状態にしておく。
第 18 回	テーマ	縫製基礎技術の修得（リボン）⑨
	内 容	クリスマスリースの作成
	授業時間外 学修	予習：クリスマスのイメージのリボン準備 サテンのリボンで縫う 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
第 19 回	テーマ	縫製基礎技術の修得（ミシン縫い）①
	内 容	クリスマスタペストリー作成①
	授業時間外 学修	予習：クリスマスのイメージの布を準備（バイアスの扱い方） 復習：作品の図案が完成できるよう準備しておく。
第 20 回	テーマ	裁縫基礎技術の修得（ミシン縫い）②
	内 容	クリスマスタペストリー作成②
	授業時間外 学修	予習：タペストリーの綿・布を準備する。 復習：作品の図案を完成する。
第 21 回	テーマ	裁縫基礎技術の修得（ミシン縫い）③
	内 容	クリスマスタペストリー作成③
	授業時間外 学修	予習：前回の授業で終わらなかったところを確認する。（さしこ縫い） 復習：次回で仕上げられる状態までに準備しておく。
第 22 回	テーマ	裁縫基礎技術の修得（ミシン縫い）④
	内 容	クリスマスタペストリー作成④
	授業時間外 学修	予習：完成に着ける飾りの準備。（ベル・リボン） 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
第 23 回	テーマ	裁縫基礎技術の修得（折り紙）
	内 容	クリスマスツリー作成
	授業時間外 学修	予習：折り紙のツリー準備。（ポンポン・ベルなど） 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
第 24 回	テーマ	裁縫基礎技術の修得（ミシン縫い）⑤
	内 容	なべ敷き（キルティング）作成
	授業時間外 学修	予習：厚い布地の準備（キルティングの布の扱い方）。 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
第 25 回	テーマ	裁縫基礎技術の修得（ミシン縫い）⑥
	内 容	なべつかみ（キルティング）作成
	授業時間外	予習：家庭でよく使う物の布の準備をする。

	学修	復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
第26回	テーマ	裁縫基礎技術の修得（ミシン縫い）⑦
	内容	ティーポットのふたつかみ（キルティング）大の作成
	授業時間外学修	予習：いろいろな形・作り方が出来るか考える。 復習：次回の授業までに仕上げられるようにしておく。
第27回	テーマ	裁縫基礎技術の修得（ミシン縫い）⑧
	内容	ティーポットのふたつかみ（キルティング）小の作成
	授業時間外学修	予習：形は同じでも小さいものの作りづらさをイメージする。 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく。
第28回	テーマ	裁縫基礎技術の修得（ミシン縫い）⑨
	内容	フライパンつかみ（キルティング）作成
	授業時間外学修	予習：フライパンつかみ作成の準備しておく。 復習：次回の授業までに仕上げて提出可能な状態にしておく
第29回	テーマ	まとめ
	内容	洗濯、収納について
	授業時間外学修	予習：衣生活への疑問や課題について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第30回	テーマ	まとめ（着物のたたみ方）
	内容	ポケットティッシュ（折り紙にする）入れ作成
	授業時間外学修	予習：紙と布を準備する。 復習：紙で折って布で作り、期日まで提出できるよう準備する。
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。	
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）	
成績評価の方法・基準	「ものづくり」を基本とし、完成した作品を毎回点数で評価し、作品作りにより、領域「介護」に関する理解の程度(60%)、「学び続け、成長し続ける能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	提出作品には、毎回評価を行う。	
授業時間外学修	予習(各授業回30分) 復習(各授業回30分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1日90分)	
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は職業訓練校の教員として従事していた。	
連絡先（質問等）	授業前後に、教室で質問を受け付ける。	

授業科目	介護過程 I		授業形態	講義	単位数	2 単位	
担当者	荒木隆俊						
ナンバリング	W21L217	開講時期	前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストと配布資料を用いて、介護福祉の基本理念を学び、介護福祉専門職としての能力と態度を養う。本人の望む生活の実践に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学び介護福祉専門職としての能力と態度を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護実践において介護過程の意義、目的を理解し適切な情報収集能力、介護計画の立案ができ適切な介護サービスができる着眼点を身に付ける。</li> <li>「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身に付ける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	介護過程の意義と基礎的理解①				
		内容	介護過程のプロセスを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージ 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。				
	第2回	テーマ	介護過程の意義と基礎的理解②（生活支援の考え方と介護過程の必要性①）				
		内容	生活支援の考え方を学ぶ。				
	第3回	授業時間外学修	予習：「生活支援」について整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。				
		テーマ	介護過程の意義と基礎的理解③（生活支援の考え方と介護過程の必要性②）				
	第4回	内容	生活の支援における介護過程の必要性について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：介護場面での個別ケアについてイメージを膨らませておく。 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。				
	第5回	テーマ	介護過程の意義と基礎的理解④（生活支援の考え方と介護過程の必要性③）				
		内容	介護過程展開の基本視点について学ぶ				
	第5回	授業時間外学修	予習：「尊厳」についての考え方を整理しておく。 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。				
		テーマ	介護過程の意義と基礎的理解⑤（介護過程の着眼点）				
	第5回	内容	介護過程の着眼点について学ぶ				
		授業時間外学修	予習：介護過程のイメージを膨らませておく。 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。				

第 6 回	テーマ	アセスメント①
	内 容	アセスメントとは情報収集と収集の方法について学ぶ
	授業時間外 学修	予習：テキストより、利用者の基本的な情報について確認しておく 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。
第 7 回	テーマ	アセスメント②
	内 容	I C Fの視点について学ぶ
	授業時間外 学修	予習：I C Fとは何かについて調べておく 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。
第 8 回	テーマ	情報の解釈、関連づけ、統合化①
	内 容	情報の解釈、関連づけ、統合化の方法について学ぶ
	授業時間外 学修	予習：テキスト、単元部分を読んでおく 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。
第 9 回	テーマ	情報の解釈、関連づけ、統合化②
	内 容	情報の解釈、関連づけ、統合化の視点、留意点について学ぶ
	授業時間外 学修	予習：テキスト、アセスメント表（事例）を熟読しておく 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。
第 10 回	テーマ	計画の立案①
	内 容	目標の設定の仕方について学ぶ
	授業時間外 学修	予習：テキストの単元部分を読んでおく 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。
第 11 回	テーマ	計画の立案②
	内 容	目標の表現方法、具体的な支援内容、支援方法の留意点について学ぶ
	授業時間外 学修	予習：テキスト、介護計画書（事例）を熟読しておく 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。
第 12 回	テーマ	実施①
	内 容	実施のための準備、実施の際の留意点について学ぶ
	授業時間外 学修	予習：テキストの単元部分及び介護計画書（事例）を熟読しておく 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。
第 13 回	テーマ	実施②
	内 容	記録の書き方について学ぶ
	授業時間外 学修	予習：保育養成課程で学んだ記録の書き方について確認しておく 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。
第 14 回	テーマ	評価①
	内 容	評価の意義と目的について学ぶ
	授業時間外 学修	予習：テキストの単元部分及び介護計画書（事例）を熟読しておく 復習：授業内容の要点をノートとプリントにまとめる。
第 15 回	テーマ	まとめ
	内 容	介護過程Ⅱ及び介護実習に利用できる「介護過程」ノートを仕上げる
	授業時間外	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。

	学修	復習：後期の学びに向けた学習課題を整理しておく。
	第16回	定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護過程」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。	
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）	
成績評価の方法・基準	定期試験と授業内容の理解を確認するノートとプリントにより、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。	
授業時間外学修	予習(各授業回30分) 復習(各授業回30分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1日90分)	
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。	
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 月曜日 12時25分～12時50分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。	

授業科目	介護過程Ⅱ		授業形態	演習	単位数	2単位	
担当者	松田水月、荒木隆俊、宮地康子、鈴木紳治、阿部智恵美						
ナンバリング	W21S218	開講時期	前期	授業時間数	60時間	授業回数	30回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	事例を用いて介護過程の展開、アセスメントから評価までの一連の思考過程を追体験する。また、他科目で学んだ知識や技術を統合して適切な介護計画を立案する方法を演習を通して学び、介護過程を展開できる基礎的な実践力を修得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護実践において、介護過程の意義、目的を理解し、適切な介護サービスが提供できること。また、記録の整理の仕方や書き方なども合わせて的確に準備できる能力を身につける。</li> <li>介護サービス計画や協働する他の専門職との個別計画との関係性、チームとしての介護過程を展開することの意義や方法を説明できる。</li> <li>「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」能力を身につける。</li> </ul>						
	第1回	テーマ	介護過程とケアマネジメントの関係性				(担当 荒木)
		内容	ケアマネジメントとは何かを理解し、ケアマネジメントの全体像、構成要素、歴史的背景を整理する。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業の全体像をイメージする。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第2回	テーマ	介護過程とケアマネジメントの関係性 ②				(担当 荒木)
		内容	ケアマネジメントとは何かを理解し、ケアマネジメントの全体像、構成要素、歴史的背景を整理する。				
	第3回	授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業の全体像をイメージする。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
		テーマ	ケアマネジメントの理念と目的 ①				(担当 松田水)
	第4回	内容	ケアマネジメントの理念と目的を理解し、ケアマネジメントの流れとそのプロセスで重要となる支援の原則について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：利用者主体、生活の継続性を尊重するという考え方がなぜ重要なのかを整理する。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。				
	第4回	テーマ	ケアマネジメントの理念と目的 ②				(担当 松田水)
		内容	ケアマネジメントの理念と目的を理解し、ケアマネジメントの流れとそのプロセスで重要となる支援の原則について学ぶ。				

	授業時間外 学修	予習：利用者主体、生活の継続性を尊重するという考え方がなぜ重要なのかを整理する。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 5 回	テーマ	介護過程とチームアプローチ①（チームアプローチに介護福祉士の役割） （担当 宮地）
	内容	ケアマネジメントプロセスにおける「介護」はなぜチームアプローチが必要となるのか、またチームにおける介護福祉士の役割について事例を通して学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示（読んでくる） 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 6 回	テーマ	介護過程とチームアプローチ②（チームアプローチにおける利用者支援） （担当 宮地）
	内容	事例をもとにチームアプローチの実際を理解する。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示（読んでくる） 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 7 回	テーマ	介護過程の実践的展開、その導入（2） （担当 鈴木）
	内容	事例を通して、アセスメントから評価までの思考のプロセスのトレーニングに取り組む②
	授業時間外 学修	予習：配布資料（事例）を読む 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 8 回	テーマ	介護過程の実践的展開、その導入（3） （担当 鈴木）
	内容	事例を通して、アセスメントから評価までの思考のプロセスのトレーニングに取り組む③
	授業時間外 学修	予習：配布資料（事例）を読む 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 9 回	テーマ	アセスメントの思考プロセスの理解（1） （担当 鈴木）
	内容	介護過程概念の枠組みについて学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示（読んでくる） 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 10 回	テーマ	アセスメントの思考プロセスの理解（2） （担当 鈴木）
	内容	介護過程の展開の基本視点について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示（読んでくる） 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 11 回	テーマ	情報収集の具体的手法の理解（1） （担当 鈴木）
	内容	情報収集の方法と情報の整理について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示（読んでくる） 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 12 回	テーマ	情報収集の具体的手法の理解（2） （担当 鈴木）
	内容	テキストの事例を用いて情報収集シートを作成し、具体的手法について考える。
	授業時間外	予習：テキストの関連部分を授業で指示（読んでくる）

	学修	復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 13 回	テーマ	特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者施設における事例の展開の理解① (担当 鈴木)
	内 容	介護実習施設の様々な介護事例を基に、情報収集のポイントについて学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 14 回	テーマ	特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者施設における事例の展開の理解② (担当 鈴木)
	内 容	主観的情報、客観的情報、安全確保と家族支援の視点等について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 15 回	テーマ	介護過程の展開の理解① (担当 阿部)
	内 容	介護実習施設の事例を基に収集した情報の解釈、統合化について理解する。(1)
	授業時間外 学修	予習：実習で担当した事例について、フェイスシート、アセスメント表1をまとめる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 16 回	テーマ	介護過程の展開の理解② (担当 阿部)
	内 容	介護実習施設の事例を基に収集した情報の解釈、統合化について理解する。(2)
	授業時間外 学修	予習：実習で担当した事例について、フェイスシート、アセスメント表1をまとめる。 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 17 回	テーマ	介護過程の展開の理解③ (担当 阿部)
	内 容	実習で担当した事例について、収集した情報の意味を理解・解釈する。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 18 回	テーマ	介護過程の展開の理解④ (担当 阿部)
	内 容	複数の情報の関係性を明らかにして、支援の方向性を検討する。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 19 回	テーマ	介護過程の展開の理解⑤ (担当 阿部)
	内 容	実習で担当した事例のアセスメントから、生活課題を抽出する。(1)
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 20 回	テーマ	介護過程の展開の理解⑥ (担当 阿部)
	内 容	実習で担当した事例のアセスメントから、生活課題を抽出する。(2)
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 21 回	テーマ	介護計画とは (担当 阿部)
	内 容	介護計画の意義・目的と考え方について学ぶ。



回	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 22 回	テーマ	介護計画の立案 (担当 阿部)
	内容	様々な事例を基に基本的な介護計画の立案の手順を学ぶ。
回	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 23 回	テーマ	生活課題の優先順位 (担当 阿部)
	内容	実習で担当した事例の生活課題についてまとめ、優先順位を設定する。
回	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 24 回	テーマ	介護目標の設定 (担当 阿部)
	内容	介護職の視点から生活課題を基に目標を設定する流れを理解する。 また、目標の表現方法について学び、実習で担当した事例を基に目標を設定する。
回	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 25 回	テーマ	介護計画の作成 (1) (担当 阿部)
	内容	援助・支援内容と方法についてその留意点を学び、実習で担当した事例を基に、具体的援助・支援内容を考える。
回	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 26 回	テーマ	介護計画の作成 (2) (担当 阿部)
	内容	実習で担当した事例を基に援助・支援内容、方法と頻度について、実施の可能性を考慮して具体化する。
回	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 27 回	テーマ	介護計画の整理① (担当 松田 荒木 宮地)
	内容	実習で担当した事例について介護計画を整理する。
回	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 28 回	テーマ	介護計画の整理② (担当 松田 荒木 宮地)
	内容	介護実習Ⅱで実施可能な内容なのかしっかり吟味する。
回	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第 29 回	テーマ	介護計画の整理③ (担当 松田 荒木 宮地)
	内容	介護実習Ⅱでの介護計画の実施に向け、目標と援助内容・支援内容方法を再確認し、実施の際の留意点について学ぶ。
回	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
第	テーマ	介護計画の整理④ (担当 松田 荒木 宮地)

	30	内 容	介護過程の展開とその一連の流れについて振り返りを行う。
	回	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分を授業で指示(読んでくる) 復習：授業内容の要点をノートにまとめる。
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護過程」(中央法規出版) 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻(中央法規出版)		
成績評価の方法・基準	介護過程の演習課題により、領域「介護」に関する理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	課題については、その都度講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回30分)復習(各授業回30分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1日90分)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員の荒木は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。 担当教員の松田(水)は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。 担当教員の宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。 担当教員の鈴木は、介護老人福祉施設で介護職員の実務に従事、現在は小規模多機能型居宅介護事業所計画作成担当者として従事している。 担当教員の阿部は、介護老人保健施設で介護職員の实務に従事、現在は生活相談員として従事している。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先(質問等)	鈴木・阿部 授業前後に、教室で質問を受け付ける。 荒木・松田水・宮地 オフィス・アワー 月曜日12時25分～12時50分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	介護過程Ⅲ		授業形態	演習	単位数	2単位		
担当者	松田水月、宮地康子、荒木隆俊							
ナンバリング	W2S219	開講時期	後期	授業時間数	60時間	授業回数	30回	
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	他科目で学習する知識や技術を統合して実際に介護実習で取り組んだ事例に対して、さまざまな検討を加え、適切な介護サービスを提供できる能力と、それらを的確に記録し説明できる能力を介護過程のまとめと発表会を通して確かめていく。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実践において、個別の事例を通して適切な情報収集から始まる介護過程の展開ができる能力を身につける。</li> <li>・各自が介護実習で取り組んだ介護過程を整理し、記録できる能力を身につけ、その展開事例を口頭で発表できて、質問に答えられる能力を身につける。</li> <li>・他の学生の介護過程の事例を理解できる能力を、発表会を通して身につける。</li> <li>・「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」能力を身につける。</li> <li>・「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構成して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」能力を身につける。</li> </ul>							
授業計画	第1回	テーマ	カンファレンス①					(担当 荒木・松田・宮地)
		内容	カンファレンスの意義と目的について学ぶ					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
	第2回	テーマ	カンファレンス②					(担当 荒木・松田・宮地)
		内容	カンファレンスの効果的視点について学ぶ。					
	第3回	授業時間外学修	予習：保育士養成課程で学んだ、カンファレンスの視点について確認しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
		テーマ	モニタリング①					(担当 松田・宮地・荒木)
	第4回	内容	モニタリングの意義と目的について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：保育士養成課程で学んだ、モニタリングについて調べておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
		テーマ	モニタリング②					(担当 松田・宮地・荒木)
	内容	モニタリングの効果的視点について学ぶ。						
	授業時間外学修	予習：必要な情報とはについて調べておく。						

	学修	復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第5回	テーマ	評価① (担当 宮地・荒木・松田)
	内容	実習で体験した、評価の重要性について再度確認する。
	授業時間外学修	予習：介護過程で取り組んだ事例から、評価の重要について確認しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第6回	テーマ	評価② (担当 宮地・荒木・松田)
	内容	評価の効果的視点について学ぶ。
	授業時間外学修	予習：自分が取り組んだ介護過程の事例の実施評価について、整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第7回	テーマ	介護過程とチームアプローチ (担当 荒木・松田・宮地)
	内容	介護過程とチームはどのように連携していたか
	授業時間外学修	予習：介護実習で目に触れたチーム連携場面について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第8回	テーマ	介護過程に必要な記録 (担当 荒木・松田・宮地)
	内容	介護過程に必要な記録について学ぶ。
	授業時間外学修	予習：介護実習で目に触れた記録類について確認しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第9回	テーマ	介護実習で取り組んだ対象事例の共有① (担当 松田・宮地・荒木)
	内容	各自が取り組んだ介護過程事例について発表し、さまざまな対象者像の理解を図る内容とする。①
	授業時間外学修	予習：各自が取り組んだ対象事例について、口頭で発表できる準備をしておく。 復習：発表内容の要点をプリントにまとめる。
第10回	テーマ	介護実習で取り組んだ対象事例の共有② (担当 松田・宮地・荒木)
	内容	各自が取り組んだ介護過程事例について発表し、さまざまな対象者像の理解を図る内容とする。②
	授業時間外学修	予習：各自が取り組んだ対象事例について、口頭で発表できる準備をしておく。 復習：発表内容の要点をプリントにまとめる。
第11回	テーマ	介護実習で取り組んだ対象事例の共有③ (担当 宮地・荒木・松田)
	内容	各自が取り組んだ介護過程事例について発表し、さまざまな対象者像の理解を図る内容とする。③
	授業時間外学修	予習：各自が取り組んだ対象事例について、口頭で発表できる準備をしておく。 復習：発表内容の要点をプリントにまとめる。
第12回	テーマ	介護実習で取り組んだ対象事例の共有④ (担当 宮地・荒木・松田)
	内容	各自が取り組んだ介護過程事例について発表し、さまざまな対象者像の理解を図る内容とする。④
	授業時間外学修	予習：各自が取り組んだ対象事例について、口頭で発表できる準備をしておく。 復習：発表内容の要点をプリントにまとめる。
第13回	テーマ	介護実習で取り組んだ対象事例の共有⑤ (担当 荒木・松田・宮地)
	内容	各自が取り組んだ介護過程事例について発表し、さまざまな対象者像の理解を図る

	回		内容とする。⑤
	授業時間外 学修		予習：各自が取り組んだ対象事例について、口頭で発表できる準備をしておく。 復習：発表内容の要点をプリントにまとめる。
第 14 回	テーマ		介護過程事例の整理 (担当 松田・宮地・荒木)
	内 容		実習で取り組んだ介護過程実施部分の整理①
	授業時間外 学修		予習：介護過程実施部分の記録整理をしておく。 復習：次の授業に支障のないよう整理を行う。
第 15 回	テーマ		介護実践の科学的探究① (担当 松田・荒木・宮地)
	内 容		各自の介護過程事例の研究①
	授業時間外 学修		予習：授業の進行に支障のないようしっかりと各自の事例を整理しておく。 復習：次の授業に支障のないよう整理を行う。
第 16 回	テーマ		介護実践の科学的探究② (担当 松田・荒木・宮地)
	内 容		各自の介護過程事例の研究②
	授業時間外 学修		予習：授業の進行に支障のないようしっかりと各自の事例を整理しておく。 復習：次の授業に支障のないよう整理を行う。
第 17 回	テーマ		介護実践の科学的探究③ (担当 松田・荒木・宮地)
	内 容		各自の介護過程事例の研究③
	授業時間外 学修		予習：授業の進行に支障のないようしっかりと各自の事例を整理しておく。 復習：次の授業に支障のないよう整理を行う。
第 18 回	テーマ		介護実践の科学的探究④ (担当 松田・荒木・宮地)
	内 容		各自の介護過程事例の研究④
	授業時間外 学修		予習：授業の進行に支障のないようしっかりと各自の事例を整理しておく。 復習：次の授業に支障のないよう整理を行う。
第 19 回	テーマ		介護実践の科学的探究⑤ (担当 松田・荒木・宮地)
	内 容		各自の介護過程事例の研究⑤
	授業時間外 学修		予習：授業の進行に支障のないようしっかりと各自の事例を整理しておく。 復習：次の授業に支障のないよう整理を行う。
第 20 回	テーマ		介護実践の科学的探究⑥ (担当 松田・荒木・宮地)
	内 容		各自の介護過程事例の研究⑥
	授業時間外 学修		予習：授業の進行に支障のないようしっかりと各自の事例を整理しておく。 復習：次の授業に支障のないよう整理を行う。
第 21 回	テーマ		介護実践の科学的探究⑦ (担当 松田・荒木・宮地)
	内 容		各自の介護過程事例の研究⑦
	授業時間外 学修		予習：授業の進行に支障のないようしっかりと各自の事例を整理しておく。 復習：次の授業に支障のないよう整理を行う。
第 22 回	テーマ		介護実践の科学的探究⑧ (担当 松田・荒木・宮地)
	内 容		各自の介護過程事例の研究⑧
	授業時間外 学修		予習：授業の進行に支障のないようしっかりと各自の事例を整理しておく。 復習：次の授業に支障のないよう整理を行う。介護過程発表会に向けて、発表会の

		レジュメを作成し、次回の授業時に提出をする。
第 23 回	テーマ	介護過程研究発表に向けて①（介護過程の展開の理解）（担当 松田・荒木・宮地）
	内 容	研究発表会を行い、知識と技術統合を図り、合わせて、物の見方考え方の確認を行う内容とする。そのため、個々の発表、及び他の事例に対しての質問や意見の準備を行う。①
	授業時間外 学修	予習：発表レジュメの提出 復習：各自の介護過程事例の発表会に向けた準備を行う。
第 24 回	テーマ	介護過程研究発表に向けて②（介護過程の展開の理解）（担当 荒木・松田・宮地）
	内 容	研究発表会を行い、知識と技術統合を図り、合わせて、物の見方考え方の確認を行う内容とする。そのため、個々の発表、及び他の事例に対しての質問や意見の準備を行う。②
	授業時間外 学修	予習：口頭発表の準備と、発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。 復習：発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。
第 25 回	テーマ	介護過程研究発表①（介護過程の展開の理解）（担当 松田・荒木・宮地）
	内 容	研究発表会①
	授業時間外 学修	予習：発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。 復習：発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。
第 26 回	テーマ	介護過程研究発表②（介護過程の展開の理解）（担当 松田・荒木・宮地）
	内 容	研究発表会②
	授業時間外 学修	予習：発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。 復習：発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。
第 27 回	テーマ	介護過程研究発表③（介護過程の展開の理解）（担当 松田・荒木・宮地）
	内 容	研究発表会③
	授業時間外 学修	予習：発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。 復習：発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。
第 28 回	テーマ	介護過程研究発表④（担当 松田・荒木・宮地）
	内 容	研究発表会④
	授業時間外 学修	予習：発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。 復習：発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。
第 29 回	テーマ	介護過程研究発表⑤（担当 松田・荒木・宮地）
	内 容	研究発表会⑤
	授業時間外 学修	予習：発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。 復習：発表事例に対しての質問や意見等の準備を行う。
第 30 回	テーマ	介護過程研究論文の提出（担当 松田・荒木・宮地）
	内 容	実習施設に提出する介護過程研究論文と、発表会レジュメの最終提出
	授業時間外 学修	予習：最終提出に支障のないよう、しっかり完成する。 復習：最終提出に支障のないよう、しっかり完成する。
第 31 回	まとめ	介護過程の重要性についての確認。評価。（担当 松田・荒木・宮地）
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護過程」（中央法規出版）	

	適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）
成績評価の方法・基準	介護過程研究論文、発表会の内容（質問、意見、考え方等）により、領域「介護」に関する理解の程度（60%） 「フィードバック能力」(2)・「学び続け、成長し続ける能力」(2)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%) で評価する。特に、研究発表会の内容等を優先する。
課題に対するフィードバックの方法	研究発表会の発表後に、各自に講評を行うとともに、全体講評も行う。
授業時間外学修	予習(各授業回 30分) 復習(各授業回 30分)として、授業計画で示した内容を実施する。 個別援助計画実施・評価のまとめと発表準備（1日 90分）、介護福祉士国家試験対策学習(1日 90分)
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 松田は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。 宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。 荒木は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 松田・宮地・荒木：月曜日 12時 25分～12時 50分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。

授業科目	介護総合演習 I		授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当者	松田水月、荒木隆俊、宮地康子						
ナンバリング	W21S220	開講時期	前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験する介護実習を円滑に進めていくために、実習指導の内容を主として行う。また、体験する介護実習を共有し、介護福祉士としての質的向上を図る。</li> <li>・介護実習に向けての心構えや動機づけを行いながら、介護福祉士としての専門職に求められる福祉、介護の理念や職業倫理等も理解する。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習に向けて、目的を明確にして望んでいる。</li> <li>・社会人としての規範、心構え、礼儀等を身につけようと努力している。</li> <li>・専門職として介護福祉士の自覚を持ち、他者に共感でき相手の立場に立って介護サービスを提供できる視点を明らかにしようとする。</li> <li>・「自分で考え実践できる能力」(1)「現状をしっかりととらえることができる」能力を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	介護実習とは① (担当 松田・宮地・荒木)				
		内容	実習の目的について				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第2回	テーマ	介護実習とは② (担当 松田・宮地・荒木)				
		内容	実習の意義について				
		授業時間外学修	予習：保育士養成課程での実習を振り返り、実習課題を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第3回	テーマ	介護実習とは③ (担当 松田・宮地・荒木)				
		内容	実習施設の理解				
		授業時間外学修	予習：シラバスに記載している実習種別について調べておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第4回	テーマ	介護実習計画① (担当 松田・宮地・荒木)				
		内容	介護実習区分Ⅰ 介護実習Ⅰ-① Ⅰ-②の実習内容について				
		授業時間外学修	予習：介護現場のイメージ、対象者のイメージを膨らませて、介護実習Ⅰ-①の「実習のねらい」を考えておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
第	テーマ	介護実習計画② (担当 松田・宮地・荒木)					



5 回	内 容	介護実習区分Ⅱ 介護実習Ⅱの実習内容について
	授業時間外 学修	予習：介護現場のイメージ、対象者のイメージを膨らませて、介護実習Ⅰ－② Ⅱの「実習のねらい」を考えておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 6 回	テーマ	介護実習配属施設の決定 (担当 松田・宮地・荒木)
	内 容	実習計画に沿い、実習配属施設を具体的に周知する。
	授業時間外 学修	予習：実習計画及び実習内容について、深く調べておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 7 回	テーマ	実習生調書 実習のねらいの書き方 (担当 松田・宮地・荒木)
	内 容	介護実習Ⅰ－① Ⅰ－②の実習生調書 実習のねらいの書き方について
	授業時間外 学修	予習：保育士養成課程で学んだ、実習生調書 実習のねらいを確認しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 8 回	テーマ	実習配属施設ごとに、実習のねらいの作成 (担当 松田・宮地・荒木)
	内 容	メンバー同士で十分話し合い、共通の実習のねらいを作成する。
	授業時間外 学修	予習：実習課題 不安等を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 9 回	テーマ	介護実習Ⅰ－①の整理① (担当 松田・宮地・荒木)
	内 容	実習施設に提出する、実習日誌、礼状等の作成
	授業時間外 学修	予習：介護実習Ⅰ－①で使用した関係書類、関係資料等を整理し、持参する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 10 回	テーマ	介護実習Ⅰ－①の整理② (担当 松田・宮地・荒木)
	内 容	自己評価及び課題の修正
	授業時間外 学修	予習：実習体験から課題を明確にしておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 11 回	テーマ	実習施設で学んだ援助の視点① (担当 松田・宮地・荒木)
	内 容	「技術」を共有し、知識と技術の統合を行う。
	授業時間外 学修	予習：実習施設で学んだ技術について、プレゼンテーションができるように施設ごと準備する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 12 回	テーマ	実習施設で学んだ援助の視点② (担当 松田・宮地・荒木)
	内 容	「援助の観点」を共有し、知識と技術の統合を行う。
	授業時間外 学修	予習：実習施設で学んだ援助の観点について、口頭発表ができるように施設ごと準備する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 13 回	テーマ	実習施設で確認した記録 (担当 松田・宮地・荒木)
	内 容	記録の必要性について理解する。
	授業時間外 学修	予習：実習施設で使われていたさまざまな記録をノートに記録しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第	テーマ	知識と技術の統合 (担当 松田・宮地・荒木)

	14 回	内 容	知識と技術をどう統合するか、どういう観点から統合していくのかを、実習施設ごとに整理する。
		授業時間外 学修	予習：知識と技術の統合とはどういうことか、整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ (担当 松田・宮地・荒木)
		内 容	介護実習Ⅰ－② Ⅱ 事前指導
		授業時間外 学修	予習：これまでの実習を振り返り、理解、力不足の点を整理しておく。 介護過程の対象事例について、個別援助計画書を仕上げる 復習：今後の実習の学びに向けた課題を整理して実習に望む。
教科書・テキスト	シラバス(介護実習Ⅰ－① Ⅰ－② Ⅱ) 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻(中央法規出版)		
成績評価の 方法・基準	提出物、授業内容のまとめのプリントにより、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「自分で考え実践できる能力」(1)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	提出物や課題レポート(8時間)等については随時確認し、不備は指摘し再提出を求める。その他の課題には、提出後講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回30分) 復習(各授業回30分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1日90分)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 松田は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。 荒木は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。 宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先(質問等)	オフィスアワー 松田・荒木・宮地：月曜日12時25分～12時50分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	介護総合演習Ⅱ		授業形態	演習	単位数	1単位		
担当者	宮地康子、松田水月、荒木隆俊							
ナンバリング	W2S221	開講時期	後期	授業時間数	30時間	授業回数	15回	
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	介護過程と連動して、体験した介護実習を共有し、介護福祉士としての質的向上を明確にしていく。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習の成果を整理し、記録としてまとめ各自の課題を明らかにできる。</li> <li>・介護福祉士としてどんな姿勢を持って対象者と関わっていくかを明確にして、サービスの提供ができる能力を身につけている。</li> <li>・質の高い介護実践やエビデンスの構築に繋が実践研究の足掛かりを身につける。</li> <li>・「自分で考え実践できる能力」(5)「自分の価値観に基づいて判断し、実践することができる」能力を身につける。</li> </ul>							
授業計画	第1回	テーマ	介護実習Ⅱ事後指導①				(担当 松田・宮地・荒木)	
		内容	実習施設に提出する、実習日誌、礼状等の作成					
		授業時間外学修	予習：介護実習Ⅱで使用した関係書類、関係資料等を整理し、持参する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
	第2回	テーマ	介護実習Ⅱ事後指導②				(担当 松田・宮地・荒木)	
		内容	実習全体を振り返り、自己評価及び学習課題の明確化を図る。					
	第3回	授業時間外学修	予習：実習日誌の読み合わせのため介護実習Ⅰ-①Ⅰ-②の実習日誌を確認して持参する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
		テーマ	知識と技術の統合①				(担当 宮地・松田・荒木)	
	第4回	内容	介護実践に必要な知識、地域における生活支援の実践について、実習施設ごとに話しあう。					
		授業時間外学修	予習：介護実践には、特にどのような知識が必要と考えたか、各自整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
	第4回	テーマ	知識と技術の統合②				(担当 宮地・松田・荒木)	
		内容	介護実践に必要な技術、地域における生活支援の実践について、実習施設ごとに話しあう。					
	第4回	授業時間外学修	予習：介護実践には、特にどのような技術が必要と考えたか、各自整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
第4回		テーマ	知識と技術の統合③				(担当 宮地・松田・荒木)	

5 回	内 容	3回目、4回目の授業で考えた視点について、知識と技術の統合とは何か、地域における生活支援の実践について、具体例をあげて示し、実習施設ごとに発表できる準備を行う。
	授業時間外 学修	予習：知識と技術の統合とはどういうことかについて整理しておく。 復習：授業の要点をプリントにまとめる。
第 6 回	テーマ	知識と技術の統合④ (担当 宮地・松田・荒木)
	内 容	知識と技術の統合についての発表
	授業時間外 学修	予習：実習施設ごとに発表できる準備をしておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 7 回	テーマ	自分が最も大切にしたい援助の視点 (担当 松田・宮地・荒木)
	内 容	知識と技術の統合から見えてきた援助の視点を明確にする。
	授業時間外 学修	予習：知識と技術の統合から見えてきた援助の視点を考えておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 8 回	テーマ	介護実践の科学的探究① (担当 荒木・松田水・宮地)
	内 容	介護過程Ⅲの授業と連動して、個別援助計画の実施部分の整理と、まだ実施していない部分について、これまでの知識から導かれる介護過程の展開を研究し、個別援助計画を立てた部分までの経過をまとめる。
	授業時間外 学修	予習：授業に支障のないよう準備をする。 復習：次回の授業に支障のないよう準備をする。
第 9 回	テーマ	介護実践の科学的探究② (担当 宮地・松田・荒木)
	内 容	介護過程Ⅲの授業と連動して、個別援助計画の実施部分の整理と、まだ実施していない部分について、これまでの知識から導かれる介護過程の展開を研究し、個別援助計画を立てた部分までの経過をまとめる。
	授業時間外 学修	予習：授業に支障のないよう準備をする。 復習：次回の授業に支障のないよう準備をする。
第 10 回	テーマ	介護実践の科学的探究③ (担当 宮地・松田・荒木)
	内 容	介護過程Ⅲの授業と連動して、個別援助計画の実施部分の整理と、まだ実施していない部分について、これまでの知識から導かれる介護過程の展開を研究し、個別援助計画を立てた部分までの経過をまとめる。
	授業時間外 学修	予習：授業に支障のないよう準備をする。 復習：次回の授業に支障のないよう準備をする。
第 11 回	テーマ	介護実践の科学的探究④ (担当 宮地・松田・荒木)
	内 容	介護過程Ⅲの授業と連動して、個別援助計画の実施部分の整理と、まだ実施していない部分について、これまでの知識から導かれる介護過程の展開を研究し、個別援助計画を立てた部分までの経過をまとめる。
	授業時間外 学修	予習：授業に支障のないよう準備をする。 復習：次回の授業に支障のないよう準備をする。
第 12	テーマ	介護実践の科学的探究⑤ (担当 宮地・松田・荒木)
	内 容	介護過程Ⅲの授業と連動して、個別援助計画の実施部分の整理と、まだ実施してい

	回		ない部分について、これまでの知識から導かれる介護過程の展開を研究し、個別援助計画を立てた部分までの経過をまとめる。	
	授業時間外学修		予習：授業に支障のないよう準備をする。 復習：次回の授業に支障のないよう準備をする。	
	第13回	テーマ	介護実践の科学的探究⑥	(担当 宮地・松田・荒木)
		内容	介護過程Ⅲの授業と連動して、個別援助計画の実施部分の整理と、まだ実施していない部分について、これまでの知識から導かれる介護過程の展開を研究し、個別援助計画を立てた部分までの経過をまとめあげて提出をする。	
		授業時間外学修	予習：介護過程研究論文、介護過程発表会で使用する発表レジュメの提出に支障のないよう準備をする。 復習：介護過程Ⅲとの授業と連動している、介護過程発表会の準備を行う。	
	第14回	テーマ	質の高い介護実践とは	(担当 松田・宮地・荒木)
		内容	質の高い介護実践とはどういう視点かを考え、生涯学習の足掛かりを見出す。	
		授業時間外学修	予習：質の高い介護実践とはについて、考えを述べられるよう整理しておく。 復習：他の学生の考えを聞いて、自分に足りない視点を整理しておく。	
	第15回	テーマ	エビデンスの構築に繋がる姿勢とは	(担当 松田・宮地・荒木)
		内容	エビデンスの構築に繋がる実践とはどういう視点かを考え、生涯学習の足掛かりを見出す。	
授業時間外学修		予習：エビデンスの構築に繋がる実践とはについて、考えを述べられるよう整理しておく。 復習：他の学生の考えを聞いて、自分に足りない視点を整理しておく。		
	第16回	まとめ 質の高い介護実践とは、エビデンスに繋がる介護実践とはについて、レポートを提出（8時間以上）する。		
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護過程」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）			
成績評価の方法・基準	介護過程研究論文、及び課題レポートにより、領域「介護」に関する理解の程度(60%) 「自分で考え実践できる能力」(5)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。			
課題に対するフィードバックの方法	介護過程研究論文については、介護過程Ⅲと連動して講評を行う。課題については、確認後講評を行う。			
授業時間外学修	予習(各授業回30分) 復習(各授業回30分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1日90分)			
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員の宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。 担当教員の松田(水)は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。 担当教員の荒木は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。			
連絡先(質問等)	オフィスアワー 宮地・松田・荒木：月曜日12時25分～12時50分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。			

授業科目	介護実習Ⅰ-①		授業形態	実習	単位数	2単位																									
担当者	松田水月、宮地康子、荒木隆俊、伊藤和雄、及び実習施設介護実習指導者																														
ナンバリング	W22P222	開講時期	前期	授業時間数	96時間	授業回数	一回																								
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する																									
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○																								
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。																														
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。																														
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						○																								
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。																														
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護という職業の意義深さ、介護を行う者としての働く姿勢、職業倫理等を身につけ、常に介護対象者の人権を護り、介護の本質を探究する基本的な姿勢を身につける。</li> <li>・介護過程の実践的展開を理解する。</li> <li>・多職種協働の実践に触れ、多職種協働の理念を説明できる。</li> <li>・地域における生活支援の実践について学び、その機能と役割を説明できる。</li> <li>・「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」能力を身につける。</li> </ul>																														
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設・事業（区分Ⅰ）における実習</li> </ul> <p>&lt;特別養護老人ホーム&gt;</p> <p>老人福祉法に基づく老人福祉施設の一つ。原則65才以上で、寝たきりや認知症等の症状があり、日常生活を営むのに支障がある要介護3～5の認定を受けた方が心身の状況に応じた介護（食事、身じたく、入浴、排泄等）や相談、援助を行うことを目的とした施設。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:50%;">名称</th> <th style="width:50%;">住所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別養護老人ホーム 新寿荘</td> <td>新庄市大字本合海字福田界 2645</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム 清幸園</td> <td>天童市大字大清水 491-1</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム 明幸園</td> <td>天童市大字矢野目 150</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム 眺葉園</td> <td>河北町谷地東 680</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム 長生園</td> <td>寒河江市大字柴橋 2246-1</td> </tr> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム たかだま</td> <td>天童市大字清池 1559-1</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム ながまち荘</td> <td>山形市長町 751</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム 愛日荘</td> <td>山形市妙見寺 4</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム みこころの園</td> <td>山形市大字沼木字下河原 1129-1</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム 蓬仙園</td> <td>上山市高野字下小屋 176-1</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム まほろば荘</td> <td>高島町大字福沢 705-1</td> </tr> </tbody> </table>							名称	住所	特別養護老人ホーム 新寿荘	新庄市大字本合海字福田界 2645	特別養護老人ホーム 清幸園	天童市大字大清水 491-1	特別養護老人ホーム 明幸園	天童市大字矢野目 150	特別養護老人ホーム 眺葉園	河北町谷地東 680	特別養護老人ホーム 長生園	寒河江市大字柴橋 2246-1	地域密着型特別養護老人ホーム たかだま	天童市大字清池 1559-1	特別養護老人ホーム ながまち荘	山形市長町 751	特別養護老人ホーム 愛日荘	山形市妙見寺 4	特別養護老人ホーム みこころの園	山形市大字沼木字下河原 1129-1	特別養護老人ホーム 蓬仙園	上山市高野字下小屋 176-1	特別養護老人ホーム まほろば荘	高島町大字福沢 705-1
名称	住所																														
特別養護老人ホーム 新寿荘	新庄市大字本合海字福田界 2645																														
特別養護老人ホーム 清幸園	天童市大字大清水 491-1																														
特別養護老人ホーム 明幸園	天童市大字矢野目 150																														
特別養護老人ホーム 眺葉園	河北町谷地東 680																														
特別養護老人ホーム 長生園	寒河江市大字柴橋 2246-1																														
地域密着型特別養護老人ホーム たかだま	天童市大字清池 1559-1																														
特別養護老人ホーム ながまち荘	山形市長町 751																														
特別養護老人ホーム 愛日荘	山形市妙見寺 4																														
特別養護老人ホーム みこころの園	山形市大字沼木字下河原 1129-1																														
特別養護老人ホーム 蓬仙園	上山市高野字下小屋 176-1																														
特別養護老人ホーム まほろば荘	高島町大字福沢 705-1																														

<老人保健施設>

介護保険法に規定されている介護保険施設の一つ。病状が安定期にある要介護者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理下における介護、機能訓練その他必要な医療、日常生活上の世話をを行い、入所者の有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるようにするとともに、居宅における生活への復帰を目指す施設。

名称	住所
介護老人保健施設 景雲荘	大江町大字左沢 1187
介護老人保健施設 ラ・フォーレ天童	天童市大字道満 193-1

<障害者支援施設>

身体に障害があり、常時の介護を必要としている要介護者が入所し、医学的管理の下に治療、訓練、生活支援を受け、身体の機能の保持、増進を図る施設。

名称	住所
障がい者支援施設 月光園	遊佐町当山字上戸 8-1
障がい者支援施設 すげさわの丘	山形市すげさわの丘 727-47

- ・介護実習Ⅰ－①では、介護対象者の生活の場である介護現場で、人間形成をしながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活状況について理解する。
- ・生活を維持させるためには何が必要なのかという、介護過程の展開を通して、個別ケアの実践の重要性について理解する。
- ・介護実践のための基本的な生活支援技術を学び、介護をする上で必要な他の職種の役割等にも触れ、介護福祉士の役割について理解する。
- ・介護過程の実践的展開について学ぶ。
- ・多職種協働の実践について学ぶ。
- ・地域における生活支援の実践について学ぶ。

授業時間外	予習： 学修課題を明確にし、体調管理も含めた実習準備を行う。
学修	復習： 実習日誌記入及び介護過程の展開記録の整理。

教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護過程」（中央法規出版）
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）
成績評価の方法・基準	施設からの実習評価及び実習日誌により、介護全般に対する領域「介護」に関する理解の程度(40%)、「フィードバック能力」(1)の獲得程度(30%)、実習参加度(30%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	実習後に、実習施設評価・各種提出物、出席状況等はすべてフィードバックし、講評を行う。
授業時間外学修	実習日誌記入及び介護過程の展開記録の整理。

<p style="text-align: center;"><b>備 考</b></p>	<p>実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>担当教員の松田は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。</p> <p>担当教員の宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。</p> <p>担当教員の荒木は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。</p> <p>担当教員の伊藤は、介護老人福祉施設で26年間介護業務、相談援助、介護計画作成等に従事した実務経験を持つ。</p> <p>各実習施設では、実務経験3年以上の介護福祉士、介護実習指導者講習会修了者の実習担当職員が指導に当たる。</p> <p>何れも、その経験を踏まえ、有意義な実習が展開できるよう、連携をとりながらサポートする。</p>
<p><b>連絡先（質問等）</b></p>	<p>実習巡回を行うので、その都度行う。その他、緊急の場合は、松田を窓口にして電話等で対応する。</p>



授業科目	介護実習Ⅰ－②	授業形態	実習	単位数	1単位										
担当者	松田水月、宮地康子、荒木隆俊、伊藤和雄及び実習施設介護実習指導者														
ナンバリング	W22P223	開講時期	前期	授業時間数	40時間										
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格：必修	実務経験のある教員による授業科目		授業回数	一回										
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。				○										
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。														
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。														
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。				○										
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。														
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護対象者の暮らしや住まい等の日常生活の理解や多様な介護サービス、多様な介護現場での実習を通して、介護の幅広さを理解し、それに伴う知識、技術を身につける。</li> <li>・介護対象者の生活理解を中心として、介護対象者、家族とのコミュニケーション等の実践を通して介護のみならず、さまざまな介護現場で適切な支援ができる能力を身につける。</li> <li>・多職種協働の実践に触れ、多職種協働の理念を説明できる。</li> <li>・地域における生活支援の実践について学び、その機能と役割を説明できる。</li> <li>・「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」能力を身につける。</li> </ul>														
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設・事業（区分Ⅰ）における実習</li> </ul> <p>&lt;訪問介護事業所&gt;</p> <p>介護保険の給付対象となる居住サービスの一つ。要介護者であって居宅において介護を受ける方に対し、介護福祉士及び一定の研修を修了した訪問介護員により行われる入浴、排せつ、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事、生活等に関する相談及び助言その他の日常生活上の支援を行う事業所。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">名称</th> <th style="width: 50%;">住所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>清幸園ヘルパーステーション</td> <td>天童市大字大清水 491-1</td> </tr> <tr> <td>訪問介護事業所河北町社会福祉協議会</td> <td>河北町谷地甲 2325-2</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;通所介護事業所&gt;</p> <p>介護保険の給付対象となる居宅サービスの一つ。要介護者であって、居宅において介護を受ける方を特別養護老人ホームや老人デイサービスセンター等で入浴や食事の提供、生活等に関する相談・助言、健康状態の確認、その他の日常生活上の世話、機能訓練を行うサービスをいい、利用者の社会的孤立感の解消、心身機能の維持、利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">名称</th> <th style="width: 50%;">住所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 20px;"> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>					名称	住所	清幸園ヘルパーステーション	天童市大字大清水 491-1	訪問介護事業所河北町社会福祉協議会	河北町谷地甲 2325-2	名称	住所		
名称	住所														
清幸園ヘルパーステーション	天童市大字大清水 491-1														
訪問介護事業所河北町社会福祉協議会	河北町谷地甲 2325-2														
名称	住所														

デイサービスセンターあじさい	新庄市大字本合海福田界 1802-25
清幸園デイサービスセンター	天童市大字大清水 491-1
明幸園デイサービスセンター	天童市大字矢野目 150
通所介護事業所 ちょうよう	河北町谷地東 704-1
長生園指定通所介護事業所	寒河江市大字柴橋 2246-1
通所介護事業/介護予防通所介護事業	山形市長町 751
みこころの園通所介護事業所	山形市大字沼木字下河原 1129-1

#### <通所リハビリテーション>

介護保険の給付対象となる居宅サービスの一つ。病状が安定期にある要介護者であって居宅において介護を受ける方の生活障害を除去又は軽減する目的で、介護老人保健施設において心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために、診療に基づき実施される計画的な医学的管理の下に行われる理学療法、作業療法、その他必要なりハビリテーションを行う。

名称	住所
通所リハビリテーション景雲荘	大江町大字左沢 1187
通所リハビリテーション ラ・フォーレ天童	天童市大字道満 193-1

#### <小規模多機能型居宅介護事業所>

介護保険の給付対象となる地域密着型サービスの一つ。中重度となっても要介護者の居宅での生活の継続を支援するため、「通い」を中心として、その心身の状況や置かれている環境などに応じて、「訪問」や短期間の「宿泊」を組み合わせ、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行う事業所。

名称	住所
小規模多機能型居宅介護事業所 たかだま	天童市大字清池 1559-1

- ・介護実習Ⅰ-②では、在宅介護現場での実習を行う。
- ・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において種々の介護サービスが行われていることを理解しながら、その人らしさを維持しながら生活している状況について学ぶ。
- ・在宅介護実践のための基本的な生活支援技術を学び、介護をする上で必要な他の職種の役割等にも触れ、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割についても理解する。
- ・多職種協働の実践について学ぶ。
- ・地域における生活支援の実践について学ぶ。

授業時間外	予習： 学修課題を明確にし、体調管理も含めた実習準備を行う。
学修	復習： 実習日誌記入及び介護過程の展開記録の整理。

教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「介護過程」（中央法規出版）
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）
成績評価の	施設からの実習評価及び実習日誌により、介護全般に対する領域「介護」の理解の程度(40%)、「フィー

方法・基準	ドバック能力」(1)の獲得程度(30%)、実習参加度(30%)で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	実習後に、実習施設評価・各種提出物、出席状況等はすべてフィードバックし、講評を行う。
授業時間外学修	実習日誌記入及び介護過程の展開記録の整理。
備考	<p>実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>担当教員の松田は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。</p> <p>担当教員の宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。</p> <p>担当教員の荒木は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。</p> <p>担当教員の伊藤は、介護老人福祉施設で26年間介護業務、相談援助、介護計画作成業務等に従事した実務経験を持つ。</p> <p>各実習施設では、実務経験3年以上の介護福祉士、介護実習指導者講習会修了者の実習担当職員が指導に当たる。</p> <p>何れも、実務経験を踏まえ、有意義な実習が展開できるよう、連携をとりながらサポートする。</p>
連絡先（質問等）	実習巡回を行うので、その都度行う。その他、緊急の場合は、松田を窓口にして電話等で対応する。

授業科目	介護実習Ⅱ	授業形態	実習	単位数	3単位																	
担当者	松田水月、宮地康子、荒木隆俊、伊藤和雄、及び実習施設介護実習指導者																					
ナンバリング	W22P224	開講時期	前期	授業時間数	160時間	授業回数	一回															
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修		実務経験のある教員による授業科目		該当する																	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。					○																
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。																					
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。																					
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。					○																
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。																					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習Ⅰ-①とⅠ-②を基礎にして、個別ケアを行うためには個々の生活リズムや個性を理解し、介護対象者の課題を明確にしなければならない。そこで介護実習Ⅱでは、介護対象者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。</li> <li>・一連の介護過程の実践的な展開ができ、これらを意識しながら介護サービスを提供できる能力を身につける。</li> <li>・多職種協働の実践に触れ、多職種協働の理念を説明できる。</li> <li>・地域における生活支援の実践について学び、その機能と役割を説明できる。</li> <li>・「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」能力を身につける。</li> <li>・「フィードバック能力」(3)「実践中に瞬時に判断し、修正や改善をすることができる」能力を身につける。</li> </ul>																					
授業計画	<p>実習内容 実習施設・事業（区分Ⅱ）における実習 ＜特別養護老人ホーム＞</p> <p>老人福祉法に基づく老人福祉施設の一つ。原則65才以上で、寝たきりや認知症等の症状があり、日常生活を営むのに支障がある要介護3～5の認定を受けた方が心身の状況に応じた介護（食事、身じたく、入浴、排泄等）や相談、援助を行うことを目的とした施設。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">名称</th> <th style="width: 50%;">住所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別養護老人ホーム 新寿荘</td> <td>新庄市大字本合海字福田界 2645</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム 清幸園</td> <td>天童市大字大清水 491-1</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム 明幸園</td> <td>天童市大字矢野目 150</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム 眺葉園</td> <td>河北町谷地東 680</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム 長生園</td> <td>寒河江市大字柴橋 2246-1</td> </tr> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム たかだま</td> <td>天童市大字清池 1559-1</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム ながまち荘</td> <td>山形市長町 751</td> </tr> </tbody> </table>						名称	住所	特別養護老人ホーム 新寿荘	新庄市大字本合海字福田界 2645	特別養護老人ホーム 清幸園	天童市大字大清水 491-1	特別養護老人ホーム 明幸園	天童市大字矢野目 150	特別養護老人ホーム 眺葉園	河北町谷地東 680	特別養護老人ホーム 長生園	寒河江市大字柴橋 2246-1	地域密着型特別養護老人ホーム たかだま	天童市大字清池 1559-1	特別養護老人ホーム ながまち荘	山形市長町 751
名称	住所																					
特別養護老人ホーム 新寿荘	新庄市大字本合海字福田界 2645																					
特別養護老人ホーム 清幸園	天童市大字大清水 491-1																					
特別養護老人ホーム 明幸園	天童市大字矢野目 150																					
特別養護老人ホーム 眺葉園	河北町谷地東 680																					
特別養護老人ホーム 長生園	寒河江市大字柴橋 2246-1																					
地域密着型特別養護老人ホーム たかだま	天童市大字清池 1559-1																					
特別養護老人ホーム ながまち荘	山形市長町 751																					

特別養護老人ホーム 愛日荘	山形市妙見寺 4
特別養護老人ホーム みこころの園	山形市大字沼木字下河原 1129-1
特別養護老人ホーム 蓬仙園	上山市高野字下小屋 176-1
特別養護老人ホーム まほろば荘	高島町大字福沢 705-1

<老人保健施設>

介護保険法に規定されている介護保険施設の一つ。病状が安定期にある要介護者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理下における介護、機能訓練その他必要な医療、日常生活上の世話をを行い、入所者の有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるようにするとともに、居宅における生活への復帰を目指す施設。

名称	住所
介護老人保健施設 景雲荘	大江町大字左沢 1187
介護老人保健施設 ラ・フォーレ天童	天童市大字道満 193-1

<障害者支援施設>

身体に障害があり、常時介護を必要としているが、家庭で十分な介護を受けることが困難な状態にある方々が利用され、医学的管理の下に治療、訓練、生活支援を受け、身体の機能の保持、増進を図り、また精神的安定と自立心の向上を図る施設。

名称	住所
障がい者支援施設 月光園	遊佐町当山字上戸 8-1
障がい者支援施設 すげさわの丘	山形市すげさわの丘 727-47

- ・介護対象者の情報収集をもとに、各自の立てた介護計画を持参し、実習指導者と十分相談、連携を行いながら介護過程の展開を進めていく。
- ・介護過程の展開を思考、実践する際は、個々の介護対象者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の場面での介護過程の展開能力を身につける。また、介護計画の作成、実施後の評価や、これを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に繰り返し実施し、日々の介護活動に対して、自ら行った介護実践の評価や計画を修正しながら関わりあえる姿勢と能力を身につける。
- ・介護過程の実践的展開について学ぶ。
- ・多職種協働の実践について学ぶ。
- ・地域における生活支援の実践について学ぶ。
- ・介護実習全体を通して介護という職業の意義深さ、介護を行うものとして働く姿勢、職業倫理を身につけ、常に人権を守り介護の本質を探究する介護福祉士をめざす。
- ・生涯学習の足掛かりをつくる。

授業時間外	予習： 学修課題を明確にし、体調管理も含めた実習準備を行う。
学修	復習： 実習日誌記入及び介護過程の展開記録の整理。

教科書・テキスト	中央法規出版 介護福祉士養成講座「介護過程」
参考書・参考資料等	中央法規出版 介護福祉士養成講座全巻
成績評価の方法・基準	施設からの実習評価及び実習日誌により、介護全般に対する領域「介護」に関する理解の程度(40%)、「自分で考え、実践できる能力」(4)・「フィードバック能力」(3)獲得程度(30%)、実習参加度(30%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	実習後に、実習施設評価・各種提出物、出席状況等はすべてフィードバックし、講評を行う。
授業時間外学修	実習日誌記入及び介護過程の展開記録の整理。
備考	<p>実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>担当教員の松田は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。</p> <p>担当教員の宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。</p> <p>担当教員の荒木は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。</p> <p>担当教員の伊藤は、介護老人福祉施設で26年間介護業務、相談援助、介護計画作成等の業務に従事した実務経験を持つ。</p> <p>各実習施設では、実務経験3年以上の介護福祉士、介護実習指導者講習会修了者の実習担当職員が指導に当たる。</p> <p>何れも、経験を踏まえ、有意義な実習が展開できるよう、連携をとりながらサポートする。</p>
連絡先（質問等）	実習巡回を行うので、その都度行う。その他、緊急の場合は、松田を窓口にして電話等で対応する。